

外国籍県民かながわ会議（第13期・第4回）議事録

開催日：2025（令和7）年8月24日（日曜日）
場所：かながわ県民センター3階 301会議室

1 開会（事務局）

会議のルール、会議の録音、欠席者及び配布資料等について説明した。

2 議題

(1) 部会分けについて

資料1と資料2に沿って、部会分けの趣旨を柳委員長、韓委員、事務局から説明した。

・生活向上部会：外国籍県民の生活環境をよりよくするため、今ある仕組みに何か付け足す、または仕組みそのものを新しく作ることを検討する。

・情報部会：すでに多くある情報が外国籍県民の手元に届かない、伝わってこないということに課題意識を持ち、どうやってより効果的に情報を提供していくのがよいのかを検討する。

→出席した委員から、部会分けについて意見はなかったので、案の分け方で部会を進めていく。

(2) 提言構想メモの修正版の発表

資料3に沿って、各委員が提言構想メモの修正点を発表した。

欠席した委員の提言構想メモについては、事務局が説明した。

＜質疑応答＞

ア 柳委員長の提言構想メモについて

（韓委員）

・学校の教育課程に入れようという話か。

（柳委員長）

・神奈川県に提言を出すとしたら県立高校が対象になる。第二外国語を学ぶ目的に、外国につながりのある生徒たちが自分の母語を学ぶと

してん　い　しゅし
いう視点を入れてほしいという趣旨。

イ モラレス副委員長の提言構想メモについて

(柳委員長)

- ・外国につながりのある人も、「日本社会で生活しているのだから日本
の文化や日本語をもっと学ばないといけない」ということを知らせないといけない、という趣旨か。これはどういうふうに情報を伝えているか、という部会の話にもつながる。

(モラレス副委員長)

- ・そのとおり。

ウ 倉橋委員の提言構想メモについて

(モラレス副委員長)

- ・とてもよい。日本語ができないと、外国人高齢者はどこにも行けない。
- ・介護保険などの制度を知らない人に向けて、多言語資料を作ったり、研修を開くとともに助かるのではないかと思う。外国人が集まるバーようなものがあってもよい。

(柳委員長)

- ・12期で高齢者に関する提言がでているので、それに付け足せないかという視点でも考えていけたらよい。

エ 蒋委員の提言構想メモについて

(韓委員)

- ・生活オリエンテーションはどういった層が対象か。
- ・転入したばかりの外国人、中長期の滞在者、技能実習以外の就労ビザの人たち、たとえば技人国や家族滞在の人も対象になると思う。
- ・県でどこまで面倒をみるべきかが軸になると思う。住民登録する際にオリエンテーションを用意している市や区もある。県が実施してください、と言うのは多分難しい。どこまでアプローチできるか。

(蒋 委員)

- ・たとえば、2年間だけ県が行い、その後市町村に引き継ぐのもあります。

(バ委員)

- ・自分が大学に行っていたときは、大学からこういう説明があった。

(韓委員)

- ・受け入れ機関があれば、その機関が責任もって行う。ない層にどうアプローチするか。それは県が面倒を見るべきものなのか。話し合いのなかで明らかにできるとよい。

オ ドン委員の提言構想メモについて

(モラレス副委員長)

- ・とてもよい。外国人にも協調が必要。日本の文化、日本の社会に入らないといけない。

カ バ委員の提言構想メモについて

(柳委員長)

- ・昨今の情勢のなかで県民会議としてどう打ち出していくのか、ということは、事務局も含めて今後話し合いが必要になると思う。

キ 韓委員の提言構想メモについて

(事務局)

- ・大使館によつては、県内外外国人の状況を全て把握している。災害時の大使館の役割も含めて検討していただけるとよい。

(韓委員)

- ・今も連携はあると思うが、大使館で窓口を設置し、連携することはできるのではないか。

ク 松村委員の提言構想メモについて

(韓委員)

- ・やさしい日本語で受験のシステムの説明は可能か。日本人にも難しく、情報量は相当ある。学校によって情報も異なる。

この提言は、蔣委員やモラレス副委員長の提言と重なる点があるといふくいいんちょう
いう印象。

(蔣委員)

・教育委員会では、高校進学ガイダンスを多言語で2回実施している。
県立と私立で全然違うし、学校見学は、日本語での予約が必要になった
ので、外国人保護者にとって難しい。改善すべきはそこからだと思う。

(愈委員)

・先生は併願を勧めてくるが、調査や判断が難しい。それは外国人だからではない。

(韓委員)

・外国人だから、という側面もあり、そこに狙いをつけて提言しなければならない。観点を整理したい。

(柳委員長)

・選択のためには情報が必要。外国人への情報提供が不十分な側面もあり、それをどうするかという話になる。ヒアリングしながら課題を捉え、提言に入れられればよい。また、情報を得る努力も必要。努力せずとも求めめるだけではない、ということをベースに考えていく。最低限ここだけはしてください、という内容で提言に落とし込んでいく。

ケ 愈委員の提言構想メモについて

(オオシロ副委員長)

・中学校に学習支援を増やしてほしいということ。

(愈委員)

・高校受験に向けて、中学校で理科や社会を増やしてほしい。

(韓委員)

・在県枠の在留要件の年数を短くしたいという意味か。

(愈委員)

・受験する人数が増えて枠が増えないなかで、来日したばかりの子どもにとっては平等でない状況となっている。子どもは勉強が早いので、在日3年を超えた子どもは、日本人と同じ枠で受験してほしい。

(蔣委員)

・6年から何年にしたいのか。

(愈委員)

- ・3年に戻してほしい。

(蒋委員)

- ・学習と生活の日本語は異なり、学習の日本語には6年以上必要というのが教育委員会の判断。私たちが一般論で言うのは違う。

(韓委員)

- ・6年から3年になれば平等になるということは検証できない。特別枠を増やしてほしいというのは現状からして難しい。

(柳委員長)

- ・県民会議の活動で在留要件が変わった経緯がある。県民会議としては、多くの生徒のために枠を増やすという点に重きを置いたほうがよい。

コ オオシロ副委員長の提言構想メモについて

(韓委員)

- ・方言かどうかで子どもに教える内容が伝わらないのか。言葉と基礎学力の問題が混ざっていないか。

(オオシロ副委員長)

- ・子どもは、認識している言葉と学習するものが結び付けられないと壁にぶつかってしまうこともある。教材として使われている言葉が子どもの年齢に合っていないこともあるので、教材の見直しも必要だと思う。

(バ委員)

- ・スペイン本国と南米のスペイン語は少し異なる。

(柳委員長)

- ・教材が合わない、子どもの来日年数、2つの要因があると思う。教材化に焦点をあてる場合、どの言葉をどう選定するのかを話し合っていく。

3まとめ(柳委員長)

- ・次回の会議から部会別協議をする。

4閉会(事務局)

- ・次回の会議は9~10月とすることを伝えた。